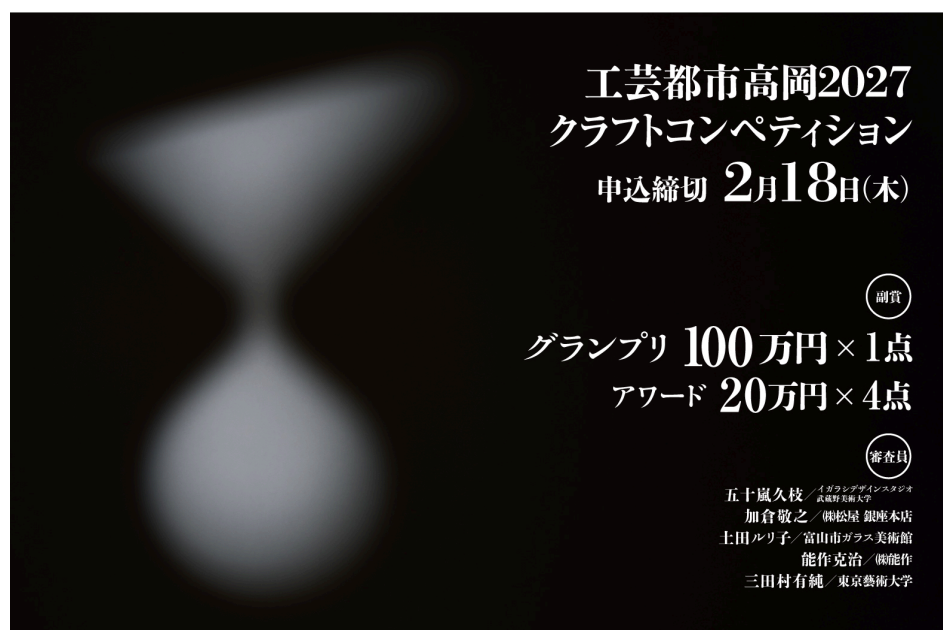


報道関係者各位
プレスリリース

2026年10月21日
工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会

【作品公募】日本最大級「工芸都市高岡2027クラフトコンペティション」 入選作品は品評会で地元・高岡の企業と協業の機会へ。 企業が希望した作品には販路開拓を支援

～金属、漆、ガラス、テキスタイル、家具など多様な分野の作品を2027年2月18日まで募集～



工芸都市高岡2027クラフトコンペティション 公募キービジュアル

工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会（事務局：高岡商工会議所）は、全国のクラフト作家、工芸作家、伝統産業に携わるつくり手、プロダクトデザイナーを対象とした「工芸都市高岡2027クラフトコンペティション」の作品募集を開始しました。

本コンペは、銅器や漆器のものづくりが400年以上受け継がれてきた富山県高岡市で、1986年に産地プロモーションと地場産業の活性化を目的として生まれました。伝統と革新を結ぶ場として多くのクリエイターを輩出し、今回で38回目を迎えます。前回からは2年に1度のビエンナーレ形式とし、作家と地元企業をつなぐ「TAKAOKA CRAFT MATCH」を通じて、入選作品を商品化や新たな市場へつなげる取り組みを進めています。応募締切は**2027年2月18日（木）23:59**。入賞・入選作品は、2027年秋に高岡で展示・予約販売を予定しており、11月には東京でも展示予定となります。

公式HP：<https://takaoka.ccis-toyama.or.jp/craft/>

応募締切 2027年2月18日（木） webからの入力、郵便振込ともに23:59締切	グランプリ（1点） 100万円 アワード（4点）各20万円
---	--

「クラフトコンペティション」が考える“クラフト”とは

前回の高岡クラフトコンペティションでは、伝統的な技術と生活を継承するだけでなく、現代の様々な価値観の変化を捉えた作品が高く評価されました。約40年前と比べると、ユニバーサルデザインやアップサイクルデザインなど、時代のニーズを踏まえた作品が増えてきたと感じています。また、近年はさまざまな分野で「クラフト」という言葉が使われ、手作りの価値、小規模な生産が改めて見直されています。

クラフトは変化し、人々の暮らしに寄り添いながら進化を続けます。時代を作るものがクラフトであるといっても過言ではありません。前回の受賞作品も、こうした変化を的確に捉えたものであり、伝統の継承にとどまらず、新たな市場の開拓につながる可能性を感じました。今後も、クラフトのさらなる進化と新しい挑戦に期待しています。

「クラフトコンペティション」4つのポイント

1. 制作にじっくり向き合える、ビエンナーレ開催

前回から2年に1度の開催に移行し、作品の構想から制作までの期間を十分に確保できるようにしました。応募要件は、未発表または2025年3月以降に発売・発表した作品で、出品者のクラフト観が反映されたものです。

2. 入選作品を事業化へつなぐ「マッチング品評会」

入選作品を対象に、地元・高岡市の企業と商品化の可能性を探る「マッチング品評会」を実施します。企業が関心を持った作品の作家には個別に連絡し、商品開発に向けた打ち合わせを打診します。商談への参加は任意です。

3. 高岡と東京、2会場での展示

入賞・入選作品は、2027年9月下旬に「高岡クラフト展」（御旅屋セリオ／富山県高岡市）、11月中旬に「東京クラフト展」で展示する予定です。高岡会場では予約注文を受け付け、産地の中と首都圏の双方で、づくり手と使い手が出会う場をつくります。

4. 新たな視点を加えた審査員体制

審査員長の能作克治氏、漆芸家の三田村有純氏に加え、空間・プロダクトデザインの五十嵐久枝氏、百貨店でづくり手と売り場をつなぐ加倉敬之氏、ガラス工芸の展覧会を数多く手がけてきた土田ルリ子氏が新たに加わります。つくる、使う、売る、伝えるという多面的な視点から作品を審査します。

1986年から続く「作家の登竜門」、産地・高岡が描く次の形

高岡クラフトコンペティションは、伝統工芸・産業の産地が自ら主催する全国公募展として、1986年に始まりました。地域の産業をPRする場として出発し、全国から多様な素材の新しいクラフトが集まる場として、「作家の登竜門」の役割を担いながら、多くのづくり手を世に送り出してきました。

一方で、SNSの普及や生活様式の変化により、作品を発表する場は多様になり、コンペティションの価値は相対的に薄れつつあります。全国で多くの公募展が姿を消すなか、本コンペティションは現存する中でも最大級の歴史あるクラフトコンペティションとなりました。こうした状況を受け、実行委員会では、伝統工芸・産業の産地である富山県高岡市がコンペティションを主催する意義を改めて捉え直しま

した。

前回からは、ビエンナーレ化による制作期間の確保、作家と企業をつなぐマッチングの促進、東京展による全国への発信を柱に据えています。伝統を受け継ぐだけでなく、新たな市場とのつながりを生み出す場として、つくり手と企業がともに価値を生み出すことを目指しています。38回目となる今回は、その歩みをさらに進める回となります。



工芸都市高岡クラフトコンペ2025ダイジェスト

<https://youtu.be/OWMpHoyKpSw?si=adkpZnPasGD5r6k6>

前回2025年は出品数が約2倍に。いま、注目を集めるコンペティション

出品数	448種類 1,371点（2023年比 約2倍）
素材・ジャンル	金属、漆、木工、陶磁器、ガラス、ジュエリー、テキスタイル、家具、照明 等
入選	120種類 529点

前回の「工芸都市高岡2025クラフトコンペティション」では、陶磁器、木工、ガラス、金属、家具など多様な素材・ジャンルの作品が全国から寄せられました。本コンペティションを通し、入選作品として地元企業とマッチングした作品のなかには、商品化に進んだものもあります。

審査員長の能作克治氏は講評でユニバーサルデザインやモノを大切にする考え方をクラフトに生かした作品が増えたこと、手づくりの価値が改めて見直されていることに触れ、受賞作品を伝統の継承にとどまらず新たな市場につながる作品と評しました。（詳細：

<https://takaoka.ccis-toyama.or.jp/craft/prize/c2025/> ）

グランプリ作品

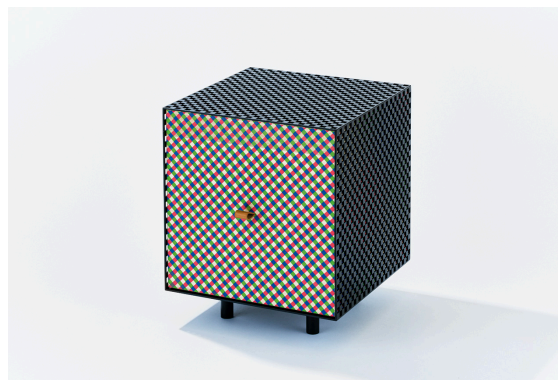


「練上ball rainbow・prism」 佐藤 愛子（愛知県瀬戸市）／磁器土

アワード作品



「blossom」 鈴木 大樹（京都府京都市）／杉、真鍮



「Rainbow Structure Cabinet」 鈴木 康洋（東京都目黒区）／桐、革、スチール



「水月（すいげつ）」 硅砂組（大阪府豊中市）／ガラス、金箔、銀箔



「TRICERATOPS」 島村 辰弥（広島県東広島市）／ホワイトアッシュ、ペーパーコード

審査員（審査員長以降は五十音順、敬称略）



審査員長 能作 克治 氏	株式会社能作 代表取締役会長。1984年に能作へ入社し、2002年に代表取締役役に就任。錫100%製品の開発やデザイン開発による販路拡大、国内外への直営店展開を進める。2013年「ものづくり日本大賞 経済産業大臣賞」、2016年藍綬褒章。
審査員 五十嵐 久枝 氏	イガラシデザインスタジオ代表、武蔵野美術大学 空間演出デザイン学科教授。クラマタデザイン事務所を経て1993年に独立。商業施設や保育園などの空間、家具・プロダクト・遊具のデザインを手がける。グッドデザイン賞、キッズデザイン賞などの審査委員を務める。
審査員 加倉 敬之 氏	株式会社松屋 銀座本店 ライフスタイル部門 商品担当課長。2008年に松屋銀座に入社し、販売やバイヤーを経験。全国のものづくりの現場を訪ね、つくり手と使い手の双方に満足される新しい販売手法を提案している。
審査員 土田 ルリ子 氏	富山市ガラス美術館。サントリー美術館の学芸副部長を経て、2020年に富山市ガラス美術館副館長に就任。エミール・ガレや薩摩切子など、ガラスをテーマとした展覧会を数多く企画。
審査員 三田村 有純 氏	東京藝術大学 参与・名誉教授、日展理事。江戸蒔絵赤塚派の十代目を継承する漆芸家。国内外で作品を発表するほか、工芸産業の国際的なマーケット構築にも携わる。2018年 第74回日本藝術院賞。

募集概要

名称	工芸都市高岡2027クラフトコンペティション
応募要件	・ 未発表、又は過去2年以内（2025年3月以降）に発売・発表済のもの ・ 出品者のクラフト観が反映されているもの ・ 販売可能なもの（追加製作が可能なもの。現品限りの出品は不可） ・ 展示できる重さと強度、大きさや数量を考慮したもの
参加資格	不問（個人、グループ問いません）
応募方法	公式サイトのお出品申込フォームから、マイページを作成のうえ応募 www.ccis-toyama.or.jp/takaoka/craft
応募締切	2027年2月18日（木） webからの入力、郵便振込ともに23:59締切
出品料	第1次審査：一種につき5,000円（出品時に支払い） 第2次審査：一種につき5,000円（1次審査通過者にのみ支払いの連絡あり。それまでは支払わないこと） ※一種とは、単一作品及び同一品種のセット、またデザインの統一されたグループをいう。納入された出品料は返却不可
各賞	グランプリ（1点） 100万円 （アワードの中から1点） アワード（4点） 各20万円
搬入・搬出	1次審査通過者にのみ、2次審査のための作品搬入について連絡。搬入に係る経費は出品者負担。入選作品の搬出はクラフト展終了後（2028年1月予定）
送金先	口座番号：00790-0-69077 口座名称：工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会 郵便局備え付けの振込用紙を使用し、通信欄に「高岡クラフトコンペ」、会社名・氏名（作家名）・連絡先・電話番号を明記

応募から審査・展示までのスケジュール

2027年2月18日（木）	応募締切 マイページを作成し、作品を応募。1次審査出品料（5,000円）
3月上旬	第1次審査 作品画像・情報を審査し、入選作品を決定。通過者にはマイページで案内。2次審査出品料（5,000円）
6月中旬	第2次審査 現物作品を審査し、入賞作品を決定。結果の通知は6月下旬予定
9月下旬	高岡クラフト展 会場：御旅屋セリオ（富山県高岡市御旅屋町101 御旅屋セリオ2F）。入賞・入選作品の展示と予約注文受付（販売手数料20%）
11月中旬	東京クラフト展 入賞・入選作品を展示

※会場・会期は予定です。受賞作品は高岡と東京の2会場で展示し、どの作品をどの会場で展示するかは実行委員会が決定します。展示会場は選考後に個別に案内します。

主な注意事項

- ・グランプリ受賞作品の所有権は実行委員会に帰属し、高岡市デザイン・工芸センターで常設展示します。
- ・応募作品の著作権、工業所有権等は応募者に帰属します。入賞・入選作品の展示、ホームページ・SNSへの掲載、主催者が行うパブリシティへの使用の権利は主催者が有します。
- ・入選作品は予約販売します。追加注文の納期は個数に関係なく発注後3か月以内とし、追加注文に係る送料は出品者負担です。
- ・応募要領に反するもの、既発表のデザインと同一・類似のものなどは審査対象から除外し、結果発表後に判明した場合も入賞・入選を取り消すことがあります。詳細は公式サイトの特集要項をご確認ください。

主催・お問い合わせ

主催：工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会（富山県・高岡市・高岡商工会議所・(株)富山県産業高度化センター・一般財団法人富山県産業創造センター・富山県総合デザインセンター・高岡市デザイン・工芸センター・公益財団法人高岡地域地場産業センター・一般社団法人富山県アルミ産業協会・公益社団法人富山県デザイン協会・伝統工芸高岡銅器振興協同組合・伝統工芸高岡漆器協同組合・高岡伝統産業青年会・高岡商工会議所青年部）

本件に関するお問い合わせ

工芸都市高岡クラフトコンペ実行委員会 事務局（高岡商工会議所内）

〒933-8567 富山県高岡市丸の内1-40

TEL：0766-23-5002／FAX：0766-22-6792

E-mail：takaoka.craft@gmail.com

公式サイト：www.ccis-toyama.or.jp/takaoka/craft